

○目標・方針

|                                       |                                                                                            |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期的な学校運営の目標・方針                        | 本年度の重点目標                                                                                   |
| 「郷土に誇りを持ち、未来に向かって、<br><br>学び続ける生徒の育成」 | (1) 不登校生徒を出さない学級づくり<br>(2) 生徒の確かな学力の育成<br>(3) 教員が生徒に向き合う環境づくり<br>(4) 地域や保護者に信頼される開かれた学校づくり |

○自己評価

| 領域                                              | 評価の観点                             | 評価項目                                                                 | 達成状況                                                                                                                                                                                                                                       | 学校の取り組み状況と改善の方策                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校運営                                            | 保護者・地域住民との連携                      | 生徒の様子や授業参観、懇談会、学校行事等の案内など、学校の教育活動の情報を学校だよりやHP等で保護者・地域へきめ細かく伝える。      | A                                                                                                                                                                                                                                          | 学校便り、学年通信、保健だより等で学校の様子を知らせることができた。また、ホームページの「校長室の窓」「子どもの様子」を随時更新し、学校行事や生徒による教育活動を、きめ細やかに保護者に情報発信することができた。今後も継続して、子どもたちの様子を地域や保護者へ伝えていきたい。本校教育の趣旨、教育活動を深める方策が必要と思われる。                                                                                                            |
|                                                 |                                   | 保護者・地域住民の方々にオープンスクールや授業参観、学校行事や講演会に参加していただき、地域に開かれた学校づくりを推進する。       | B                                                                                                                                                                                                                                          | オープンスクールでは、学年ごとに「防災クイズ」(1年)「防災体験活動」(2年)「防災講演会」(3年)を実施し、地域と連携した防災教育に全校生徒で取り組んだ。またPTA教養部による教育講演会では、平和であることの大切さを学んだ。体育大会、文化祭では多くの保護者や地域の方々の参加があり、生徒の生き生きとした活動を発表することができた。コミュニティスクールの取組も今後推進していきたい。                                                                                 |
|                                                 | 生徒指導                              | 人権感覚を磨き、いじめを許さず、自他共に「命」を大切にするための指導や活動を充実させる。不登校生徒減少に向けての取組の推進と充実を図る。 | C                                                                                                                                                                                                                                          | いじめに関しては、いじめ防止基本方針のもと、組織的に対応に努めた。生徒会本部を中心に「君を守り隊」という自治組織を編成し、見回りなどの活動を行っている。生徒の中に、自分たちでいじめをなくすという意識も表れはじめ、さらに活動を活発にしていきたい。各行事を通じて生徒同士の縦横のつながりを深めることができた。不登校生徒への取り組みは、不登校担を中心に組織的に取り組んだ結果、不登校生徒は減少傾向にある。しかし不登校ゼロを目指し、他機関との連携をさらに図っていきたい。また今後も別室登校、時差登校等を必要とする生徒には引き続き指導を続けていきたい。 |
| 学校のいろいろな活動の場面で生徒の達成感や充実感を大切に、主体的に活動できる生徒の育成を図る。 |                                   | A                                                                    | 体育大会や文化祭などの大きな行事を通じて、リーダーの育成や役員ごとに与えられた仕事に対する責任感を養うことができた。また、各月の全校集会や各専門委員会活動を通じ多くの生徒に役割が与えられ、生徒の活躍の場を作ることができた。各専門委員会でも特色のある取り組みも増えてきているので、さらに活性化するようにしたい。部活動においても積極的に取り組む生徒が多く、自主的に活動できている部が多い。しかし、練習に参加しにくい生徒などへの配慮や声掛けなどの強化をしていく必要を感じる。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 安全管理                                            | 交通事故の未然防止をはじめ、安全で安心な学校環境づくりを推進する。 |                                                                      | B                                                                                                                                                                                                                                          | 毎月、登校指導の日(第一水曜日)や下校指導の日(15日)を設定し、生徒たちの実態に即した指導に全職員で取り組んでいる。また通学路の危険箇所を点検し、その都度立ち番を行い、安全に登下校できるようにした。校舎の安全点検を行い、生徒が安心して学習できる環境づくりに努めている。今年も猛暑であったため昨年に引き続き夏季休業中の部活動では活動の初めに健康観察を行った。学校評価の保護者アンケートでは、交通指導などの安全対策では88%、施設、設備などの安全管理においては95%の理解を得ている。引き続き安全管理の徹底に取り組むたい。            |
|                                                 |                                   |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                            | 今年度の特別支援教育の共通理解に関しては、昨年度に引き続き88%の教職員が肯定的に評価しており、生徒の個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた生徒へのサポート体制が推進されている。特別支援教育における小中の連携に関しては、昨年度より2ポイント下回ったが、74%の肯定的な評価になっている。今後も氷上地域の小中交流会や相互の授業参観を活かしながら、特別支援教育の相互理解や小中連携型の生徒支援体制の確立を図っていきたい。特別教育支援員による支援を要する生徒に対しても通級指導や特別支援教育の支援を実施している。                |
| 教育課程                                            | 特別支援教育                            | 特別支援教育の推進や支援の必要な生徒に対するきめ細かな教育の推進と充実を図る。                              | B                                                                                                                                                                                                                                          | 今年度の特別支援教育の共通理解に関しては、昨年度に引き続き88%の教職員が肯定的に評価しており、生徒の個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた生徒へのサポート体制が推進されている。特別支援教育における小中の連携に関しては、昨年度より2ポイント下回ったが、74%の肯定的な評価になっている。今後も氷上地域の小中交流会や相互の授業参観を活かしながら、特別支援教育の相互理解や小中連携型の生徒支援体制の確立を図っていきたい。特別教育支援員による支援を要する生徒に対しても通級指導や特別支援教育の支援を実施している。                |
|                                                 |                                   | 基礎学力の定着と学力向上をめざして、家庭学習の充実や朝読書に取り組む。                                  | B                                                                                                                                                                                                                                          | 昨年度同様に、毎朝10分間読書の時間を設け、学級文庫を設置するなど生徒が本に触れ合う機会を増やしている。生徒へのアンケートでは、宿題などの提出物を期限内に提出できている生徒は3年生では男女ともに80%と高く、1・2年生男子で60%未満と課題が見られる。また、家庭学習が1日1時間未満である生徒の割合が、昨年度50%以上であるのに対して今年度は50%未満となり改善している。引き続き、家庭学習の定着を指導していきたい。                                                                |
| 教育課程                                            | 学習指導                              | 授業内容の充実と改善を図り、全職員で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて課題に興味を持ちながら主体的に取り組む。          | C                                                                                                                                                                                                                                          | 主体的・対話的で深い学びに繋がる授業づくりについて、校内授業研修会の計画的な実施(各学期に1回)、各教師による日常の授業づくり等により全教職員が授業内容の充実と改善に取り組んだ。アンケートでは、「楽しくわかる授業」について、生徒、保護者とも約70%が肯定的な回答をした。校内研修のねらいを全教職員で共有し、それぞれが授業で実践し、日々の授業を充実させる必要がある。                                                                                          |
|                                                 |                                   | ※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育<br>※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)              |                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                 |                                   | 領域                                                                   | 観点例                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                 |                                   | 学校運営                                                                 | 学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                 |                                   | 教育課程                                                                 | 学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                 |                                   | 課題教育                                                                 | 特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善             |                                   |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

○学校関係者評価

| 自己評価の各観点に対する評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ホームページは毎日更新され、その日の生徒や学校の様子がよくわかる。保護者や地域に生徒の様子や学校の取組を発信することは大切である。自分が出会う氷上中の生徒は良く挨拶してくれるなどとても良いと思う。ただ身近に生徒がいないのでどんな状態なのかはよくわからない。中学生が地域に出て行って、大人や高齢者と交流できるようにすることは大切だと思う。地域の中で活躍できる場を作ってやる必要があると考える。中学生はかなり力を持っているのでそれを使いたい。例えば、リサイクル活動などは、環境教育だけでなく地域を知る良い機会になっており、地域への愛着が育っている。さらに、地域でのボランティア活動につなげたい。                                                         |
| 全体では落ち着いて学校生活が送れている。SNSでの生徒間トラブルが毎年発生しており、来年度も生徒や保護者を対象に講習会等で正しいスマホの使い方指導する必要がある。不登校生徒に対しては担任だけが抱え込まず、今後も学校全体の問題として取り組んでいただきたい。来年度も生徒支援担当や養護教諭も含めて全職員で指導体制を整える必要があると思われる。不登校生徒の居場所を作ることが大切である。体育大会では組体に取り組みされていたが体育大会の華なので安全に配慮して実施してほしい。何でも止めれば良いというものでもない。また、車いすを使った演技があったが、車いすに乗っている肢体不自由の生徒に配慮した取組でとてもよかったと感じた。ただ見ている人が理解できていなかったのも、周知・広報をどうするか課題である。       |
| 通学態度の苦情は減ってきたとのこと、今後とも交通安全指導を継続的にお願いしたい。PTAや地域、職員による定期的な登下校指導を地道に繰り返しながら、安全管理を来年度も願いたい。生徒の通学マナーは全体的には良好だと思われる。絶対に安全という通学路はないので、一人ひとりの意識を高めることが大切である。                                                                                                                                                                                                            |
| 5学級29名の特別支援学級在籍生徒に対して、学校組織として全職員で支援体制を整えて取り組んでいる。特別支援学級を中心としつつ学校全体で取り組むべきである。「なぜこの生徒はこういう行動をするのだろう」というように一人ひとりの生徒の背景を理解することが大切である。2学期後半から3学期にかけて、来年度に入級する予定の生徒情報交換を各小学校と密に行われているが、この意味からも大切である。教師が生徒をしっかり見ることと指導の在り方は重要である。                                                                                                                                     |
| 引き続き「わかる授業」に取り組んで欲しい。生徒は理解できて初めてやる気生まれる。今後とも先生方全員で協力して取り組んでもらいたい。学校内では学期ごとに研究授業が行われ、授業形態にも工夫がなされていると聞いている。今後とも学力向上に向けた授業改善をしつつ「わかる授業」を目指してほしい。平均的な家庭学習時間が1時間に満たない生徒が昨年より減少して50%を下回ったのは良い傾向だ。また、スマホに費やす時間もルールを決めて使うなど家庭と連携した取組を進め、よりよい指導をお願いしたい。中間テストや家庭訪問などの廃止は、事前に保護者あてに意図(趣旨)を周知して理解を得ておくことが大切だ。唐突に実施すると反発もある。                                                |
| 自己評価の実施方法についての評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 保護者からの自由意見も多数いただき、多くの保護者の学校に対する意見や気持ちを理解することができた。生徒アンケート、保護者アンケート、教職員の自己アンケートは適切な時期に実施され、それぞれのデータは的確に分析されており、今後もこの方法で取り組まれることを期待する。                                                                                                                                                                                                                             |
| 学校関係者評価のまとめ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ホームページの更新や学校通信、学年通信、保健だより等により保護者や地域とのつながりを意識した取組がなされている。学校の取組の意図や趣旨を広報・周知することは大切だ。学校と地域や家庭との連携をさらに図れるように取組を継続していただきたい。生徒たちの活動も生徒会を中心に行事など充実している様子が見られる。学力向上や特別支援など多くの課題があるが、学校全体で解決していく必要がある。今後とも生徒の現状を理解し分析しながら学校全体で共通理解を図り、組織的に取り組んで欲しい。生徒は年々落着きを増し、行事等に積極的に参加し学校生活を送っている。半面、スマホに関わる生徒間のトラブルは必ず起きている。保護者と学校で、関係機関と連絡を密にししながら、その実態を確実に把握し継続的に指導を続けることが必要と思われる。 |

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ① 不登校を防ぐ組織的な対応や指導の実施と的確な早期対応を実施する。
- ② 学力向上のための授業の工夫改善の推進と「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業の展開を進める。
- ③ HPや通信等による情報発信により保護者との信頼関係の構築をはかるとともに地域との連携を強化する。
- ④ 秩序ある落ち着いた学校づくりと地域に開かれた教育課程の実現を図る。

令和2年3月13日

学校名 丹波市立氷上中学校  
校長名 足立 幸広 印